

五小っ子

平成31年度 学校便り第11号 (8月21日)

(令和元年度)

島原市立第五小学校
校長 永田 俊文



いのち **学校教育目標**

『生命を大切にし、進んで学ぶ』

心身ともにたくましい子どもを育成する』

○やさしさいっぱい ○かしこさいっぱい ○たくましさいっぱい

教育目標実現を目指し、子どもたち一人ひとりを大切に、全職員で力を合わせ、日々の教育活動に取り組みます。

平和集会

8月9日(金)は長崎原爆の日にあわせて平和集会を行う全校登校日です。



1学期の間、各学年毎に平和学習・平和の歌「青い空は」の練習等々を重ねてきました。

前日には、『平和の鳩』『折り鶴』に、平和への願いを込めながら先生たち全員で会場設営を行いました。子どもたちが登校する児童玄関には、「平和集会の大切さ」を伝えるメッセージが掲示され平和集会の全ての準備が整いました。

そして当日、厳粛な空気に包まれた体育館に全校児童が集合して平和集会が始まりました。

—校長講話から抜粋—

今から74年前の午前11時2分、長崎に「ファットマン」という名前の一発の原子爆弾が落とされました。今年も間もなくその時がきます。

今日のように、とても暑い暑い日だったそうです。たった1発の原子爆弾で、約7万4千人もの尊い命が一瞬にしてうばわれ、今でも病気や後遺症に苦しむ多くの人たちがいることを忘れてはなりません。

私たちは長崎の子どもとして、原子爆弾のない平和な世界をつくるように世界中の人々に呼びかけていかなければなりません。

6月23日「沖縄慰霊の日」 8月6日「広島原爆の日」 今日、8月9日「長崎原爆の日」そして8月15日「終戦の日」には、特に平和について考え、二度と悲惨な戦争を繰り返さない決意が必要などとても重要な日であることを覚えておくのです。

人が人を殺し、たくさんの大切な命を奪う戦争を、この地球上からなくすためには、私たち一人一人の心から争いをなくし、友だちや家族に優しくすることが大切です。

生命を大切にせよ ○親を大切にせよ ○感謝の心を大切にせよ
自分を大切にせよ ○まじめにせよ

そう、五小五つの教えです。そこから平和は始まると信じています。

右頁へ

集会のメインは、『平和の紙芝居』です。髪(かみ)留めがくれた命(三田村 静子作)という作者の実体験にもとづくお話を担当の先生がPCから大型スクリーンに投影しながら読み語ります。

子どもたちも真剣な表情で聞き入っていました。

本年度の平和集会は兄弟校である大分県豊後高田市立田染(たしづ)小学校児童会との交流日と重なりました。

田染小学校6年生は、既に長崎への修学旅行を済ませていましたが、今回の紙芝居作者の三田村さんのお話を直接聞いており、その方の作品を五小平和集会で改めて視聴する偶然に驚いていました。



運営委員会から全校児童が心を込めて折った千羽鶴が手渡された4年生は、2学期の社会科見学で行く長崎市平和公園の折りの塔に捧げてきます。

祈

兄弟校との交流

前述しましたが、兄弟校交流事業について紹介しましょう。

島原市と大分県豊後高田市が兄弟都市を締結したのが今から50年前です。平成の時代に入って、双方の小中学校同士が兄弟校の契りを交わしました。五小の兄弟校が豊後高田市立田染(たしづ)小学校なのです。今年は、豊後高田市児童会(9校)が島原市を訪問し2日間のホームステイをしながら交流を深めました。五小へは3名の6年生が来てくれました。

歓迎式では、五小が「歓迎の言葉」を任されていましたが、ホームステイも引き受けてくれた川田修士君、堀川さやかさん、川田妃七さんがその大役も見事にやり遂げてくれました。堀川家・川田両家の皆様本当にお世話になりました。紙面を通じ改めてお礼を申し上げます。

—歓迎の言葉—



—見送り式—

